

国内研修コース

**マイクロファイナンスからインクルーシブファイナンスへ
-金融サービスの普及で貧困層の暮らしやBOPビジネスが変わる-**

コースの概要について

2015年8月【改訂版】

概要

対象者

1. 将来、マイクロファイナンス等貧層向け金融サービスの提供をしたい方
2. インクルーシブファイナンスを支えるITや通信サービスの提供をしたい方
3. マイクロファイナンスやモバイルバンキングなどのサービスを利用して貧困層向けのビジネスの提供をしたい方

	開催時期	申込締切	コーステーマ	参加費	言語
第1回	2015年 9月5日(土) 11:00-17:00	8月31日	「顔の見える金融」 マイクロファイナンスの変遷と 現在が問いかける「責任ある金 融サービス」の意味と意義	10,000円/人	英語
第2回	2015年 11月22日(日) 11:00-17:00	11月15日	「顔の见えない金融？」 モバイルマネーは金融アクセス を自由にする貧困層の味方 か？	15,000円/人	日本語
第3回	2016年 1月16日(土) 12:00-16:00	1月11日	金融サービスをすべての人に 届けるために：法規制・監督が もたらす安定と持続、その可能 性	10,000円/人	日本語

※第2回と第3回を同時申込みの方は受講料総額より10%割引となります。

AFFの研修コースの特徴

新興国ファイナンスの新潮流を学び、次世代に必要とされる金融サービスを考える

1. マイクロファイナンスの新潮流を知る

近年アフリカを中心とした途上国ではモバイルサービス企業と商業銀行が協力し、これまでリーチアウトすることができなかった遠隔地の顧客にも金融サービスが届けられるようになるなど、革新的な発展を遂げている。本コースの連続講義では、モバイルマネーを中心に、拡大した「顧客」ターゲットの個別ニーズや環境の違いにいかに対応していくのか、インクルーシブファイナンスの将来性と課題を考察することが出来る。

2. 多角的アプローチから学ぶ

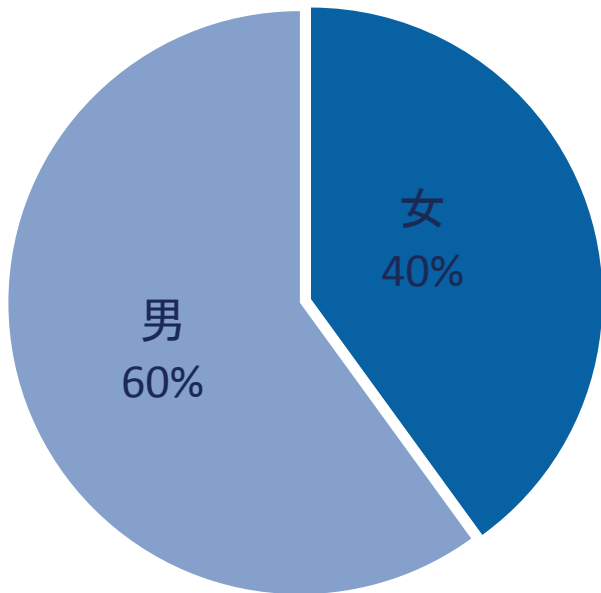
モバイルバンキングのさらなる進化を後押しすることでより受益者層を拡大させると同時に、そうした顧客が適切に保護されるよう金融規制も進化が必要とされている。また適切な金融規制があれば、外部からの投資などをひきつけやすくなり、金融機関の発展にも貢献する。転換期を迎えた途上国ファイナンスにおいて今必要とされている法規制・監督について、マイクロファイナンス機関、中央銀行など様々な視点から考察することが出来る。

3. 基礎から最先端までを深く理解する

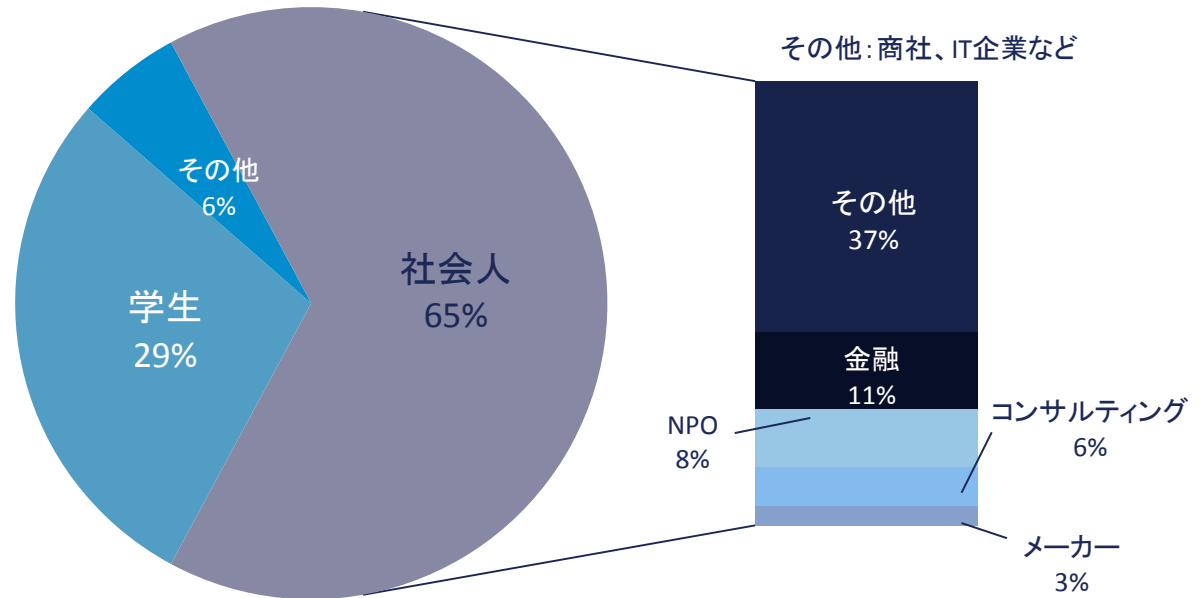
3回にわたる連続講座を受講することで、マイクロファイナンスの基礎知識にとどまらず、モバイルシステムをプラットフォームに発展するBOPビジネスやインフラ設備の課金システムなど、実務ベースの議論や、BOPビジネスへの応用など最先端の取り組みを深く理解することが出来る。

過去のご参加者様データ

男女比



属性・業種



過去のご参加者の声

マイクロファイナンスという分野があまり認知度が高くなく、情報収集する機会も少ない現状があります。そのような中で、Rutherford教授の講義や現場の話を知ることができて、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

受講前は予想していませんでしたが、市場経済と貨幣と信用の基本のキに改めて気づくことになりました。表面的な成功・不成功、事件、ニュースといった情報を見るのではなく、しくみの根本に立って支援先(私の場合は途上国の女性)のニーズの応えていける仕組みづくり、活動づくりができるようになりたいと思いました。

第1回国内研修の概要 (1/2)

目標

「インクルーシブファイナンス (Inclusive Finance)」の代表例であるマイクロファイナンスの歴史、課題と現在を知ること、「責任ある金融サービスの提供」の意味と意義を考える。

講師

Stewart Rutherford 先生、名古屋大学 教授・SafeSave創立者
 バングラディシュのマイクロファイナンス機関であるセーフセーブの創設者。著書 *The Poor and Their Money: Microfinance From a Twenty-First Century Consumer's Perspective* (Oxford University Press, 2001)、共著 *Portfolios of the Poor: How the World's Poor Live on \$2 a Day* (Princeton University Press, 2009、『最底辺のポートフォリオ—1日2ドルで暮らすということ』野上裕生監修・大川修二訳、みすず書房、2011)。

講義詳細

*講義内容は変更することがあります。

講義① Microfinance Overview and History

マイクロファイナンスのルーツを17～19世紀までさかのぼり学び、その後1976年を契機にグラミン銀行やBRACにより組織化された貧困層へのマイクロクレジットへと発達するまでの流れを、各モデルの仕組みと共にその原型となったグラミンのグループローンの手法やターゲット人口について紹介する。2006年以降マイクロクレジットは預金や保険などのサービスへと拡大し、近年はB-Kashなどに代表されるモバイルバンキング、SafeSaveのような預金に特化したサービスが開発され、「マイクロファイナンス」として全世界で急速に拡大している。時代と共に発展してきたマイクロファイナンスを通して真に貧困層が求めている金融サービスの在り方を考察する。

第1回国内研修の概要 (2/2)

講義詳細

*講義内容は変更することがあります。

講義② Learning from what poor do for themselves

貧困層のお金の流れと管理方法を学びながら「なぜ組織化された金融サービスが必要とされているのか」「なぜお金を借りた貧困層が返済する事ができるのか」を考える。貧困層の収入は少ないだけでなく不安定である為、人生の節目において必要とされるまとまった資金の確保が非常に難しい。貧困層の暮らしはまとまった資金源がない故に様々な制約を受けているが、その資金調達をコミュニティ内で実現する仕組みも古くから存在している。バングラデシュでの研究事例に基づき、貧困層の収入・出費・売り買い・貸し借りなどをクローズアップして観察する。雇用されている日本人よりはるかに複雑で逼迫した貧困層のお金の管理について学ぶ事により、クレジットだけでなく貯蓄・保険・送金など求められている金融サービス全般をタイプ別に吟味する。

講義③ What is required at MFIs for “Responsible” provision of financial services ?

2010年驚異的なスピードで成長していたインドAndhara Pradesh州のMF機関の業務が破たんした。その原因の1つに貧困層の返済能力に見合わない無責任な貸付を行ったことがある。これを契機に、良い面ばかりクローズアップされていたマイクロファイナンスの運営と意義について疑問が上がるようになった。「融資を受ける貧困層が必要とする金融サービスを、1人1人の返済能力を吟味して貸し付け、返済に向けて責任を持ってその能力開発を進め、貧困からの脱却を支援する」、そんな要素を人々はMF機関に求めている。その達成は可能なのか、それを達成するためには何が必要なのか(外部要因、内部要因)、MF機関は今後どうあるべきなのか、講義とディスカッションを通して考察する。

第2回国内研修の概要 (1/2)

目標

携帯電話を介した「顔の見えない金融」=モバイルバンキングの発達により、インフラサービスの支払い、預貯金、保険の提供、など貧困層がアクセスできる金融サービスは飛躍的に拡大した。特にモバイルバンキングは「低コストでサービスを提供できる」を強みに、人口密度が低いアフリカにおいてニーズと期待が非常に高い。一方で、顧客の定量的な情報を元にした与信判断をせざるを得ず、インクルーシブファイナンスの本来の目的を如何に体現していくか、今後注目される。モバイルバンキングの最新事例を通して、「低コスト金融サービス」の将来を考える。

講師

辻 一人先生、埼玉大学 教授、CGAP日本代表、JICA客員専門員

専門は、政治学、開発経済学、国際開発、金融包摂、開発援助。海外経済協力基金、国際協力銀行、JICA勤務を通じて、日本政府の開発援助業務に33年間携わり、インドネシア、インド、ケニア等へ赴任。2009年から、日本も加盟するマイクロファイナンスの国際機関CGAPの日本代表、2013年からはCGAP経営委員会議長。APECプロセスにおいても、金融包摂に係る日本からの専門家を務める。JICAによるマイクロファイナンス専門家養成研修の講師でもある。

講義詳細

*講義内容は変更することがあります。

講義① What is Digital Finance Plus?

携帯電話を介した送金サービス(モバイルバンキング)の基本的な仕組みを、ケニアのGrandfos Water Stationの事例を活用して理解する。Digital Finance Plusは、既存の公共インフラがアクセスできない、またはアクセスしきれない地域に、太陽光発電システムを用いた水道水の供給を可能にし、安全で安定した水資源をもたらした。モバイル決済することで資金の流れの透明性が高まり、腐敗政治家によるコストのつり上げがない。また透明性と安全性を維持するため地域での水資源管理能力が高まっている。携帯電話のプリペイド通話サービスと同じ要領で送金を可能にすることで、低コストで高アクセスのサービスを実現するその過程について学ぶ。

第2回国内研修の概要 (2/2)

講義詳細

*講義内容は変更
することがあります。

講義② How can we evaluate candidate customers' financial capacity without face-to-face encounter?

これまでのマイクロファイナンスの基本は「顔の見える金融」であり、マイクロファイナンス機関だけでは得られない顧客の情報による貸付リスクを、信頼のおける者同士でグループを結成し、定性的な情報を活用して与信判断を行い、回避してきた。対して、現在アフリカで広がる「顔の见えない金融」はモバイルバンキングと既存の商業銀行をつなげ、顧客の預貯金の金額、貯金の頻度、ローンの返済経歴、といった定量的な情報(Credit History)を活用して与信判断を行っている。いわば、先進国のスタンダードである商業銀行と顧客の間の信用取引を実現している。途上国における「顔の见えない金融」の与信判断リスク、すべての貧困層へのアクセスを可能にする方法なのか、与信判断の精度を上げるにはどうすればいいのか、ケニアのM-Shwariの事例を用いながら考察する。

講義③ Is digital banking the ally of the poor? Does it open up the market to alternate businesses for them?

モバイルバンキングをプラットフォームとしたBOPビジネスは拡大の一途をたどっている。ガーナのTigo Family Care Insuranceはその成功例の1つである。途上国においては1人の顧客が複数の携帯電話会社のSIMカードを保有することは普通で、携帯電話会社の乗り換えはかなり頻繁に行われている。この状況を打開し、顧客ロイヤリティを高めるためTIGOは使用Air Timeに応じた生命保険サービスの提供を開始し、かつて国内では一桁であった保険加入者を9割にまで伸ばした。

モバイルバンキングは貧困層の金融アクセスだけでなく、その他のサービスへのアクセスも自由にする可能性を秘めている。他方、成長が早すぎるがゆえに規制が追い付かずに、詐欺や貧困層が却って苦しい立場に置かれるケースも出てきた。モバイルバンキングを活用したインクルーシブファイナンスの拡大の将来を考察する。

第3回国内研修の概要 (1/2)

目標

「健全なマイクロファイナンスの運営のためには、現実的で適切な法規制・監督が必要、そして健全なマイクロファイナンスが運営されているところに投資マネーが集まり、サービスが拡大する」。一見難解に聞こえる法規制・監督の制度は、実はマイクロファイナンスを含むインクルーシブファイナンスの拡大の基本であり、金融政策・制度が発達する日本がその知見を共有できる分野でもある。

第3回研修では、AFFが2014年に開催したCOMESA各国代表が参加した会議において、アフリカにおけるインクルーシブファイナンスの拡大の重要課題として挙げられた項目を主軸に、ケニアの法規制・監督の専門家との質疑応答を通し最新動向を知る。

講師

辻 一人先生、埼玉大学 教授、CGAP日本代表、JICA客員専門員

専門は、政治学、開発経済学、国際開発、金融包摂、開発援助。海外経済協力基金、国際協力銀行、JICA勤務を通じて、日本政府の開発援助業務に33年間携わり、インドネシア、インド、ケニア等に赴任。2009年から、日本も加盟するマイクロファイナンスの国際機関CGAPの日本代表、2013年からはCGAP経営委員会議長。APECプロセスにおいても、金融包摂に係る日本からの専門家を務める。JICAによるマイクロファイナンス専門家養成研修の講師でもある。

講義詳細

講義① アフリカのマイクロファイナンス法規制監督の基礎

中央銀行やMF投資卸機関など異なるマイクロファイナンス法規制監督におけるプレイヤーを知り、法規制監督の基礎項目とその目的について学ぶ。また各国でMF法規制監督の必要性が認知され始めた背景やCGAPやバーゼル銀行監督委員会など国際社会における潮流を知る。

*講義内容は変更
することがあります。

第3回国内研修の概要 (2/2)

講義詳細

*講義内容は変更
することがあります。

講義② COMESA地域MF法規制監督における重要課題

2014年のCOMESAマイクロファイナンスコースにて挙げられた、アフリカの法規制監督における6つの重要課題(障害)について、学び、日本が貢献できるエリアなどについて考察する。

講義③ COMESA地域現地専門家との質疑応答セッション

講義②で学んだ6つの重要課題についてグループワーク形式で議論し、その内容をさらに現地専門家とのスカイプセッションで討論する。グループごとに最も興味がある課題を選んでもらう。そしてその課題に関する理解と質問を整理する。30分のグループセッションの後、それぞれ現地専門家への質問を一つ選びスカイプへと移行する。スカイプセッションでは元ザンビア中央銀行で金融政策を担当し、現在はMF法規制監督を専門とするコンサルタントとして活躍するDr. Chiumyaにインタビューし、同地域の現状に関する最新の知識を得る。